

妊娠中のRSウイルスワクチンについて

RS ウイルスは、細気管支炎という肺感染症を引き起こすウイルスです。RS ウイルス感染症は、ほとんどの場合軽症ですみますが、イングランドでは毎年約2万人の赤ちゃんが重度の細気管支炎により集中治療を必要としています。

そのため英国では、2024年9月より、赤ちゃんのRSウイルス感染を防ぐため、妊婦さんにRSウイルスワクチンを接種するようになりました。

RSウイルスの感染経路

RSウイルスは感染力が強く、特に子供の間では咳やくしゃみによって簡単に広がります。

手洗いやくしゃみをするときに口と鼻を覆うなどの対策を講じても、家族内で感染が広がるのを防ぐのは困難です。RSウイルス感染症は、一年中発生する可能性があり、毎年冬に感染のピークがあります。

RSウイルス細気管支炎の症状

RSウイルス細気管支炎の症状には、次のものがあります。

- ・ 鼻水が出る、鼻が詰まる
- ・ 呼吸が困難、速い、ぜいぜいする（喘鳴）
- ・ 咳
- ・ 発熱
- ・ 落ち着かない
- ・ なんとなく元気がない

RSウイルスワクチンが赤ちゃんを守る仕組み

ワクチン接種により、ウイルスに対する抗体（免疫物質）がより多く作られます。これらの抗体は胎盤を通過し、生まれた直後から赤ちゃんを感染から守ります。RSウイルスワクチン接種により、生後6か月間の重度の細気管支炎のリスクを70%減らすことができます。この時期以降は、重度のRSウイルス感染症のリスクは大幅に低下します。すべての薬と同様、完全に効果のあるワクチンはなく、母親がワクチンを接種しているにもかかわらず、赤ちゃんの中にはRSウイルス感染症にかかる場合もあります。ただし、ワクチン接種を受けた母親から生まれた赤ちゃんは、重症のRSウイルス感染症のリスクが低くなります。

RSウイルスワクチンの接種が勧められる時期

妊娠28週以降にワクチン接種が推奨されており、この時期にワクチンを接種すると、出産前に赤ちゃんに移行する抗体を十分に作る事ができます。出産直前でもワクチンを接種できますが、効果は低くなる可能性があります。

RSウイルスワクチンの副作用

ワクチンは上腕に1回注射します。副作用は通常軽度です。

副作用には次のものがあります：

- ・ 頭痛
- ・ 筋肉痛
- ・ 注射部位の痛み、赤み、または腫れ

重度のアレルギー反応などの深刻な副作用は非常にまれです。

妊娠中のRSウイルスワクチン接種の安全性

このワクチンは、英国での臨床試験で、何千人もの女性に接種されています。また、米国では10万人以上の女性にワクチンが投与されており、良好な安全性が示されています。これらの結果に基づいて、日本、英国、欧州、米国の医薬品規制当局によって承認されています。

ワクチンは赤ちゃんにとって安全ですか？

妊娠中にワクチンを接種することは、赤ちゃんがRSウイルスに感染するリスクと比較して安全とされています。

RSウイルスワクチンと他のワクチンとの同時接種

RSウイルスワクチンの接種が必要な時期に、百日咳ワクチンまたはインフルエンザワクチンをまだ接種していない場合は、同時接種が可能です。

ジャパングリーンメディカルセンター

倉田 仁（くらた ひとし）

日本クラブ・医療サービス委員会からのお知らせ：
今後のより良い紙面づくりのため、皆様からのご感想やご関心のある医療テーマがありましたら事務局までお寄せ下さい。
jimukyoku@nipponclub.co.uk